

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2024年（公財）日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項および申し合わせ事項によって行う。

2. 競技場使用について

- ウォームアップ場は、補助競技場を原則とする。砲丸投の練習については、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみとする。
- 補助競技場では、競技役員の指示に従い、メディシンボールやミニハードル等、補助競技場備え付けの用具以外は使用禁止とする。
- スパイクのピンの長さは、9mm以下とする。ただし、走高跳は12mm以下とする。また、スパイクピンの本数は原則として11本以内とする。

3. 招集について

- 招集所は、第2ゲート付近（1500mスタート地点）とする。
- 招集開始時刻および招集完了時刻は、次のとおりとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始30分前	競技開始20分前
フィールド競技（棒高跳以外）	競技開始40分前	競技開始30分前
フィールド競技（棒高跳）	競技開始60分前	競技開始50分前

※ 棒高跳は、現地で招集を行う。

- 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権となる場合があるので時間を厳守すること。
- リレーのオーダー用紙は、招集完了1時間前までに招集所へ提出すること。
オーダー用紙は、招集所で受け取る。
- 2種目を同時に出場する競技者は、あらかじめその旨を本人または代理人が競技者係に申し出ること。2種目同時に出場する場合は、トラック競技を優先すること。また、フィールド競技については、当該競技審判主任の判断により、試技順を変更することができる。試技順を変更しても、そのラウンドの試技時間に間に合わなかった場合は、無効試技とみなす。
- やむを得ず棄権する場合は、競技者係に申し出ること。

4. アスリートビブス（ゼッケン）について

- ゼッケンは団体名が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技（四種競技の走高跳を含む）に出場する競技者は、胸部または背部のみでもよい。
- トラック競技に出場する競技者は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの右横や後方につけること。
- 1500m以上の種目については、別ゼッケンを使用する場合がある。

5. 競技について

- その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールドに立ち入ることができない。
- 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- トラック競技のスタート合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- 不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。ただし、四種競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートをした競技者は、すべて失格とする。
- 短距離種目では、事故防止のため、フィニッシュライン到着後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- トラック競技はすべて写真判定で行う。
- トラック競技の予選はタイムレースとし、上位8名が決勝に進出することができる。その最下位で同タイム者が出たときは、以下の方法で決定する。
 - 判定写真を拡大し、細部（電気計時1/1000秒）まで読み取り、着差判定をする。
 - 着差がないとき、ハードルを含む400mまでの種目では、レーンに余裕がある場合のみ、決勝進出者を9名とする。
 - レーンに余裕がない場合は、監督同席のもと、同タイム者または代理人によって抽選し、決勝進出者を決定する。ただし、男女800mは、予選を行わずタイムレース決勝とする。
- リレー競技のマーカーの使用は1カ所とする。使用したマーカーはそのチームで処理する。
- 競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。走幅跳、三段跳、砲丸投は、試技を3回行い、トップ8決定後さらに3回の試技を行う。
- 三段跳は、踏切板から砂場までの距離を9mとする。
- ハードル種目の規格

男子		女子	
高さ	ハードル間	高さ	ハードル間
0.914m	9.14m(水色)	0.762m	8.00m(黒色)

(13) 砲丸の重量

男子	男子中学四種	女子	女子中学四種
5.000kg	4.000kg	2.721kg	2.721kg

6. 競技場への入退場について

- (1) 種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。
第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技
第2ゲート：第2コーナー付近からスタートするトラック競技および棒高跳・投てき競技
第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技および走高跳
第4ゲート：第4コーナー付近からスタートするトラック競技および走幅跳・三段跳
※ 第1コーナー付近からスタートする種目および1500m以外のトラック種目の選手は、荷物を取りに戻る際、メインスタンド下通路を通り、第4ゲート後方の出入口より移動すること。
- (2) フィールド競技の競技者は、係員の指示に従って退場する。

7. 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方は、最後の1人になるまでは次のとおりとする。

		練習	1	2	3	4	5	6	7	
走高跳	男	125	130	135	140	145	150	155	160	以後3cmごと
	女	110	115	120	125	130	135	140	143	以後3cmごと
四種 走高跳	男	120	125	128	131	134	137	140	143	以後3cmごと
	女	110	112	115	118	121	124	127	130	以後3cmごと
棒高跳	男		200	210	220	230	240	250	260	以後10cmごと
	女		160	170	180	190	200	210	220	以後10cmごと

- (2) 第1位決定のために行うバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。

8. 競技用具について

- (1) 競技に使用する器具は、すべて主催者が用意したものを使用すること。ただし、棒高跳用ポールの検査は、現地で跳躍審判員が行い、合格したものに限り使用が認められる。
- (2) 練習用としても個人の用具を競技場に持ち込んではいない。

9. 表彰について

- (1) 各種目の表彰は中予地区1～3位まで行う。
- (2) **総合(団体対抗)の表彰は、今年度から実施しない。**

10. 雨天練習場について

- (1) 使用する際には、以下の点に注意すること。
- ①ピストルの使用は禁止する。
 - ②入場は、第2ゲート側の入口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止とする。
 - ③シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
 - ④ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーキングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。それ以外は、補助競技場で行うこと。
 - ⑤ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
 - ⑥ハードル、スターティングブロックは使用できない。

11. その他

- (1) 応急処置を要する場合やその他健康上の問題が発生した場合は、正面スタンド下の救護室に連絡すること。
- (2) 記録は大型映像及びアナウンスにて発表する。
- (3) 各種目上位8名、リレー上位4チームに県新人大会出場資格を与える。ただし、男女四種競技については県大会を実施しない。
- (4) **抗議と上訴 (TR8) について、本部への申し出は、各団体の監督(申込時に記載)のみが行うことができる。それ以外は認めない。**
- (5) 競技者の個人情報保護の観点から、写真・ビデオ等の撮影については、以下の事項を禁止とする。また、本人に無断で写真や動画をSNS等に掲載をしない。
- ① 競技者の保護者および本人の同意のない撮影。
 - ② 撮影禁止区域での撮影(100mスタート付近、ゴール付近、ホームストレート延長線上。)
 - ③ 競技者がスターティングブロックの足合わせをしているときの撮影。
 - ④ 競技者が試技を待っている間や、身体を動かしているときの撮影。
 - ⑤ その他、大会本部から禁止の指示があった撮影。